

## 肝臓の働き

肝臓は右上腹部に位置する大きな臓器で、代謝機能(体外から摂取した栄養分を体が使いやすいように処理)、解毒機能(体が不要なものを体外に排出しやすい形に変える)、貯蔵機能(いざという時のために栄養素を分解して蓄える)、排泄機能(胆汁を生成し、腸の消化吸収を助け、不要な脂溶性の老廃物を体外に出す)を備えています。

## 肝がんの種類

こうした働きを持つ肝臓に発生する悪性腫瘍を「肝がん(肝臓がん)」といいます。最初から肝臓に発生した「原発性肝がん」と、胃がんや大腸がんのような他の臓器のがんが飛んできて生着した「転移性肝がん」に分けられ、さらに原発性肝がんは、肝臓組織を構成しているどの種類の細胞ががん化したかにより「肝細胞がん」と「胆管細胞がん」などに分類されます。肝細胞がんが原発性肝がんの大部分を占めるため、一般に肝がんといえば肝細胞がんを意味する場合があります。

## 特に注意が必要なウイルス性肝炎

そして、肝細胞がんと密接な関係にあるのがB型、C型のウイルス性肝炎です。

B型、C型の肝炎ウイルスは血液を介して感染し、特にC型肝炎ウイルス感染者の約30%が慢性肝炎に移行するといわれています。慢性肝炎が長年続くと、最終的には肝硬変になり、肝硬変を母地として肝細胞がんが高率に発生します。

そして、「肝臓は沈黙の臓器」といわれるように、病気が進行するまではっきりとした症状が出ないのが特徴です。特にB型、C型慢性肝炎の方はエコー検査を定期的に受け、肝細胞がんを早期発見することが大切です。

### ◆ がん死亡数の順位 (2024年)

	1位	2位	3位	4位	5位
男性	肺	大腸	胃	膵臓	肝臓
女性	大腸	肺	膵臓	乳房	胃
男女計	肺	大腸	膵臓	胃	肝臓

※元データ:人口動態統計がん死亡データ

▶ 次号では肝がんの治療法についてご紹介します